

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成26年 1月22日 更新

事務事業名		御代志市民センター講堂運営事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連					
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	上原 哲也		
	施策	21	生涯学習の推進				所属課	生涯学習課	担当者名	奈須 昌美		
	基本事業	69	生涯学習施設(環境)の整備				所属班	生涯学習班	(内線)	2522		
予算科目		会計一般	款10	項5	目6	事業連番10791	法令根拠	合志市民センター条例			成果優先度評価結果	⑫
										コスト削減優先度評価結果	⑥	
終了、開始年度		☒ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)				

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	御代志市民センター講堂利用者に、照明・音響等操作に関する快適な環境を提供する。 平成15年度までは職員がすべて対応をしていたが、平成16年度からはシルバー人材センター管理業務の委託を開始した。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	御代志市民センター講堂の土・日・祝日・夜間の施設利用者へ照明・音響・吊物・電動イス等の機器操作業務の提供を行う。
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO)		25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
講堂の照明・音響・吊物・電動イス等の機器操作		
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
⇒ア:御代志市民センター講堂運営事業にかかる経費	円	10827御代志市民センター維持管理事業への統合による減
⇒イ:		
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
⇒ア:講堂利用者	人	⇒ア:講堂利用者
⇒イ:		⇒イ:
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
⇒ア:施設を快適に利用できる	件	⇒ア:施設維持管理上の不具合・トラブル件数
⇒イ:		⇒イ:
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
施設管理上の不具合が少なければ、それだけ環境が整備された施設を提供できたことになるから		0

(2)各指標・総事業費の推移											
		単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込	
① 活動指標		円	767,550	767,550	768,000	767,550	0	0	0	0	
② 対象指標		人	9,754	9,170	10,000	8,369	0	0	0	0	
③ 成果指標		件	1	0	0	0	0	0	0	0	
投資 入費 量	事業 内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	127	144	132	131	132	132		
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	127	144	132	131	0	132	132	0
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員従事人数	人	1	3	1	2	1	1	1
	延べ業務時間		時間	15	250	180	125	180	180	180	0
	(B)人件費計		千円	61	1,009	726	508	726	726	726	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	188	1,153	858	639	726	858	858	0

事務事業名	御代志市民センター講堂運営事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	-----------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は24年度的事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】 管理業務内容については、問題なく実施できている。
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 運営業務が高い技術で良好に行われ、機械操作上のトラブルが今まで無いから
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 現状で十分な成果をあげているから
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 総合センターウィーブルの「文化会館技術管理事業」と類似しているの、講堂の機能を総合センター文化会館に集約することが出来る。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 文化会館技術管理事業に統合出来れば、今後の委託料が全て削減できる。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 文化会館技術管理事業に統合出来れば、人件費の削減につながる。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 委託業者を2人つける場合は、1人目の委託料は行政負担するが、2人目からは利用者が負担しているので、利用者による適正な施設の維持管理に貢献している。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 御代志市民センター講堂は市有施設なので住民への移行はできない。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

コストを抑え目立ったトラブルも無く、事業は良好に進行している。文化会館技術管理事業に統合できれば更にコスト削減が期待できる。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☐ 事業統廃合・連携

☐ 事業のやり方改善（有効性改善）

☒ 事業のやり方改善（効率性改善）

☐ 事業のやり方改善（公平性改善）

☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

各市民センターを一元管理し効率の良い事業・予算の管理を行う

(2) 改革・改善による期待成果
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策